

男女共同参画社会へ向けて
一人の「100歩」より
100人の「いっぽ」を!!

いっぽ

Vol.11 2017



合志市男女共同参画推進懇話会

男女共同参画推進懇話会は、「市男女共同参画まちづくり条例」により市民の視点による男女共同参画のまちづくりを推進し、男女共同参画に関する基本的かつ総合的な施策や、重要事項を調査研究するための市民会議です。学識経験、各種団体推薦、公募、市長推薦の委員で組織され、平成28年7月1日に市長から委嘱された18人で構成されています。



塚本薫会長

男女共同参画推進懇話会委員は任期1年を迎えます。今年も懇話会で気づきうなずきフェスティバルを開催することができました。特に今年は予算の少ない中での開催となりましたが、委員からの活発な意見が出て、「しあわせな合志市をつくるためには」という広いテーマの中から、ターゲットを子育てをしている世代に絞ったり、若い世代の親御さんに来ていただけるように、子どもたちのワークショップが必要では?と子ども向けイベントを企画したりと、すべてこの懇話会の中で決めました。自らまちづくりを行う懇話会の活動は、市民誰もが参加できるしくみです。この活動をご存じない方にも、いつも感じている想いをまちづくりに活かすことができるということを知っていただきたいと思っています。誰もが住みやすい共同参画社会は、まずは自分自身の行動から始まります。私たちと一緒に、一步を踏み出してみませんか?

合志市・合志市男女共同参画推進懇話会

平成28年度 男女共同参画社会づくり 地域リーダー育成事業県外研修に参加して

★きっかけ 私は現在合志市男女共同参画推進懇話会委員の2期目を務めています。委員になり、行政や法人代表者等の話を聞いたりします。そこで感じているのが、まだまだ男女共同参画社会は浸透していないのが現状であるということ。家庭、仕事、福祉等、もっと勉強、経験を積みたく、研修に参加することを決めました。研修は2泊3日、東京・埼玉であり、そこで学んだこと、感じたことを自分なりにまとめてみました。

★時代が変われば育児も変わる

昔は男性が主に働き、女性が支えていました。現代が良くて、昔が悪かったということではありません。そんな社会だった。間違いなく今の平和の日本をつくったのは昔の人です。しかし、現代は女性の力も社会には必要なので、男性の家事・育児も必要になったという時代背景です。

頑固カミナリ親父時代(～1950年)

・家父長制、背中で語る、『巨人の星』星一徹

モータリゼーション・サラリーマン時代(～1990年)

・高度成長期～バブル期、企業戦士と銃後の妻

イクメン時代(～現代)

・仕事と子育ての両立

★父親が子育てするメリット

1人よりも2人、2人よりも3人と育児に関わる人が多いほど、子供にもママにもパパにもメリットが多くある事がわかります。

子供にとって

- ・子供の趣味や価値観が広がる
- ・子供の自己肯定感が高まる

ママにとって

- ・時間と精神的な余裕で育児ストレス軽減

パパにとって

- ・人生が豊かになる、幸せな気持ちになれる
- ・育児で高まる仕事力→タイムマネジメント、段取り力・リスク管理・育成力

しかし、次のようにイクメンを勘違いしていませんか?

- ・エセイクメン(週末遊ぶだけのいいとこどりイクメン等)
- ・イクメンもどき(おしっこは替えるがウンチは替えない等)
- ・二人目のママ化するパパたち(ママと一緒にガミガミ怒る→ママに怒られたくないから)

妻への「手伝ってあげる」はNGです。

手伝う(=育児は自分の仕事ではない)という当事者意識のなさに妻はカチンときます。ホーム(家庭)をアウェイにしない!育児は夫婦二人で向き合い考えることです!(*^_^*)

☆パパの育児は「ママのケアが」最優先

時間を作りましょう!ママが美容室に行くのは、髪を切る為だけではありません。自分を取り戻す為にも行くのです!



原 恭平さん

★まとめ 研修はとても勉強になりました。機会があれば他の研修も紹介しながら、ぜひ合志市の参画に加わってくれる方を募っていききたいと思います。

男女共同参画社会とは

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。(男女共同参画社会基本法第2条)



お問い合わせ
合志市役所
総務課総務・男女共同参画班
TEL: 248-1112
FAX: 248-1196
メール: soumu@city.koshi.lg.jp

気づきうなずきフェスティバル

パネルディスカッション “ワーク・ライフ・バランス～しあわせな合志市をつくろう!～”

平成29年1月21日(土)に気づきうなずきフェスティバルを開催しました。パネリスト6人が「現状や成功例、悩みなどを言いあおう!」と、「自分らしい生き方」について意見を交わしました。



塚本会長

コーディネーターの塚本会長の「ワーク・ライフ・バランスについて知っていますか?」の問いに、来場者の挙手は少数でした。ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事」と育児や介護、趣味といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のことをいいます。



(株)緒方エッグファーム
緒方 幸代さん

会社側の都合だけでの人員募集はいけません。働く人に会社側が合わせていくことが必要なのです。障害がある人、出産間近の人、介護をしている人等さまざまです。また、休むことも大切です。トップが休まないで下も休めない状況をつくってしまいます。



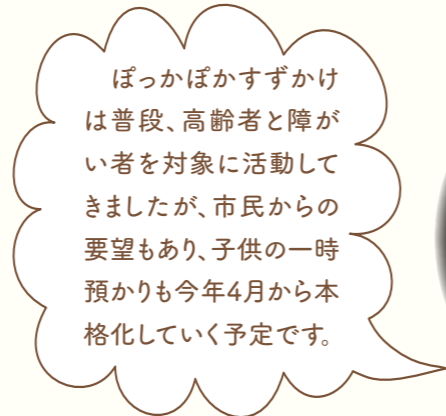
合志中部保育園園長
福嶋 義信さん

想定を超える人口増ですが、保育施設も現在受け入れを頑張っています。待機児童数も50人を切りました。



市民代表
米田 稔さん

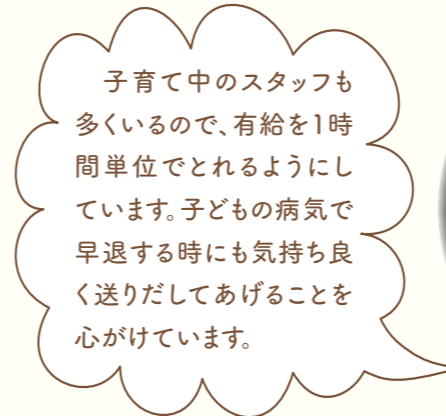
家族間でも男性と女性はどうしてもわかり合えない事があります。私たち夫婦はしっかりと話すようにしています。洗濯は苦手ですが、料理は得意なのでしています。「これはするから、あれはお願い!」など役割を話し合うことが大切だと思います。



ぼっかぼかすずかけは普段、高齢者と障がい者を対象に活動してきましたが、市民からの要望もあり、子供の一時預かりも今年4月から本格化していく予定です。



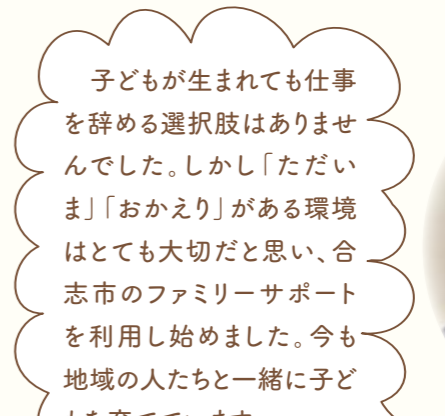
ぼっかぼかすずかけ
佐藤 昭男さん



子育て中のスタッフも多くいるので、有給を1時間単位でとれるようにしています。子どもの病気で早退する時にも気持ち良く送りだしてあげることを心がけています。



熊本YMCA
丸目 陽子さん



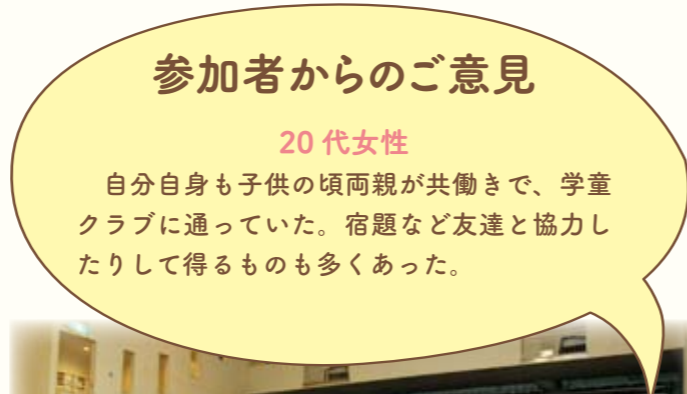
子どもが生まれても仕事を辞める選択肢はありませんでした。しかし「ただいま」「おかえり」がある環境はとても大切だと思い、合志市のファミリーサポートを利用し始めました。今も地域の人たちと一緒に子どもを育てています。



市民代表
宮野 美樹さん



オープニングの太鼓を披露してくれた栄保育園の園児たち。途中交差するなど練習の成果を発揮し、力強く2曲を披露してくれました。



参加者からのご意見

20代女性

自分自身も子供の頃両親が共働きで、学童クラブに通っていた。宿題など友達と協力したりして得るものも多かった。

20代男性

いろいろな立場からの意見が聞いてよかった。啓発活動に自分も取り組みたい。

30代男性

私も共働きなので、妻とお互い無理はしないよう話すようにしている。



子ども向けイベントのダンス教室、スポーツ体験教室、絵本の読み聞かせも好評でした♪

70代男性

紹介があった病児保育を充実させることは、とてもいい事だと思う。

★まとめ

誰もが不満なく生きていける社会にはまだまだ時間がかかるかもしれません。しかし、少しずつですが確実に前に進んでいます。子育てを支援するさまざまな取り組みが行われていますが、まずは知ることが第一歩です。一人だけで考えず、周りの人たちに話しましょう。そして“しあわせな合志市”をみんなで考え、つくっていきましょう。